

平成 27 年 6 月 20 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム  
平成 27 年度第 6 回

人間社会の崩壊

今日は、今年 1 月からのテーマ「人間社会の崩壊」について、さっと見直しをしておきたいと思います。

1 月は、城山三郎さんが著書の中で渋澤栄一について語った「人は、その性格に合った事件にしか出会わない」という台詞を取り上げました。私だけ何故こんな問題を抱えるのだろう、何故こんな不幸な目に会うのだろう、或いは、とても良い出会いに恵まれて幸せだ・・・さまざまな事件・問題に出会いますが、城山三郎さんに言わせると、皆その人の性格に合った事件だということです。不渡り手形を出してしまう人は、その人が不渡り手形を受け取ってしまうような考え方だからなのです。やはり、その人の性格に見合った仕事ぶりであったり、その人の性格に見合った人生行路を歩んでいるのだと感じます。我々も自分自身の性格に合った、自分のやりたい事をどんどんやってゆくようになると思いますので、自分自身の性格をよく見極めることが必要だと思います。

2 月は、日本の医療制度を取り上げました。日本の医療制度はどんどんおかしくなっています。特に参考になるのは、オバマケアの話です。アメリカのオレゴン州では、高額な医療費を自腹で払うか、払えない人には無料で安楽死薬を勧めている、という話をしました。そして、やがてこういう状況が日本にも来るであろうと申しました。

3 月は、飢餓についてお話しました。ソ連が解体されロシアになった時に、多くの国民が飢え死にをした話は何度もしています。日本でも国民が飢え死にをした歴史があります。終戦直後の話しです。私の学生時代の同級生の父親は裁判官で、ヤミ米には手を出さずに、政府の支給する食糧だけで生活し、飢え死にをしてしまった。それと同じ状況、現実に食べ物がなくなってしまう社会が訪れるという話を致しました。

4 月は、金融危機について申しました。金利が金利を生む時代は終わりました。資本主義は中心にいる 10%から 15%くらいの人達が裕福になる仕組みです。今のグローバル資本主義では、アメリカとそこに追随する先進国だけが裕福になる。どうしてそうなるか、日本で考えると、日本は安いお金で資源を買い集めて、それを加工して豊かになりました。一方の資源を買い叩かれた国は、裕福になる筈がない。つまり資本主義は周りの国々を犠

性にして成り立っている仕組みなのです。

しかしアメリカはもう、周辺の諸国から色々な資源を買い叩くことが出来なくなってしまった。更に、マネーゲームでお金でお金を生み出すことも出来なくなってしまった。周辺にいるアフリカやインドといった国々が先進国の仲間入りをしようと色々やり出していますが、犠牲となる周辺国が無い現状では出来ない相談です。ですから資本主義はお終いになっていると言えます。

今、中国が必死になってGDPを伸ばそうとやっていますが、ごく一握りの人達だけが大金を手に入れて、地方の人達は食糧にも喘いでいる状況になっています。資本主義の仕組みが一つの国の中でも機能して、べらぼうにお金が集まる人と、どんどん吸い上げられている人がいる。そして日本も今、同じ状況になってきています。

日銀の黒田総裁がギブアップ宣言をしているけれども、マスコミはそれをあまり伝えていません。アベノミクスはアベクロミクスと言い方が変わって、今年の暮れには、アベクロミクスの金メッキが剥がれ出していることが世間に分かり始めてくるでしょう。今も、だいぶ分かっているとは思いますが……。ですから金融危機は既に始まっている。お金がお金を生むという時代は終わりです。そういう時代に入ったのだと理解した方がよいでしょうとお話しました。

5月は、重税国家についてです。今、4536万円の年収のある人は、実感で言うと6割が税金、4割が手取りです。夫婦と子供1人に年寄りが1人、そういう家庭を政府はモデルの標準世帯としていますが、標準世帯で4536万円の収入のある人は、懲罰的に今年は所得税を5%上げました。所得税が45%、住民税が10%、それに間接税等々を足せば、だいたい6割くらいは税金で持って行かれる計算です。

江戸時代の年貢は、三公七民（三割が年貢）が普通でした。これが五公五民になると百姓一揆が起きた。四公六民でも一揆が起きる可能性がありました。渡部昇一さん流に言えば、重税によって国家が潰れるかどうかの分岐点は38%です。ですから今の日本は、重税国家の最たるものではないかと感じていると申しました。

今まで申し上げたことは、日本という国を見ながら話しているわけですから、ミクロの世界です。そして6月のテーマ「ガイア理論」は地球の話ですから、マクロです。ご紹介する本は、エリザベス・サトゥリス著『アースダンス』（株式会社バベルプレス）です。

人間社会だけではなくて、地球全体が今、危ない状況にきています。この本によると、6000年くらい前に隕石が地球に落ちて、そのショックで恐竜が絶滅をした。それが5番目の大規模な種の絶滅だそうです。科学者のデータによると、今の時代は6回目の大規模な

絶滅の危機である。人間という一つの種でもって地球を絶滅状態にさせる、とんでもない時代であると書かれています。

### 恒例の質問

では、恒例の質問に参りましょう。

○ 昨日一日、嘘をつかなかった方

皆さん手が挙がりましたから、良い人生が待っています。嘘をつかなかったと思うと、朝起きた時が爽やかです。

○ 昨日一日、良い日だったという方

寝る時に、今日一日良い日だったと実感して眠れば、循環して、また翌日も良い日が続きます。

○ 昨日一日、有難うと言ひ、有難うと言われた方

○ 昨日一日、今朝も含めて、健康法を実践した方

手を挙げなかった方は、寝たまま爪先を上下して足を伸ばしたり、呼吸法だけでもやれるとよろしいでしょう。

○ 昨晚、明日を過去形でイメージして寝た方

女性会員お二人とも手を挙げました。

先程、國分評議員から佐野市民文化祭の案内を戴きました。國分さんが「家庭の中の論語の教え」と題して、「孝経」について話をされるそうです。日本の家庭はだいたい、女性の掌の上で御主人は動かされているようなものですから、現実には女性が日本の国を動かしていると考えてもおかしくはありません。学びに関して言えば、江戸時代、武士階級は藩校がありました。庶民の人達には寺子屋がありました。しかし女性向けの学校はありません。明治時代の二松学舎の記録に、二松学舎で論語の話聞く人達は圧倒的に男性で、女性がばらりばらり入って来た、と残っています。では、女性がどこで躰を受けていたかという、家庭で母親から躰けられた。そして躰けられた娘さんは、また自分の娘を躰ける。このように日本の国は連綿と、女系で家を動かしていたと思っています。女性がきちんとした躰をしていたがために、明治維新も成功したのだと私は考えています。ですから國分さんが話をされる時には、女性をどんどん持ち上げた方がよいですね、とアドバイスさせて戴きました。

それと國分さんは是非、寝る時に、＜講演会に来ている方々が國分さんの話に感動して、万雷の拍手が起きた＞と過去形でイメージして休まれると良いと思います。私は実際そのようにしています。毎日ではありませんが、今は、＜中齋塾フォーラム創立10周年記念で

お話させて戴き、万雷の拍手が返ってくる>というイメージをして眠る。そうすると翌日  
気持ちよく起きられます。やはり夜寝る時の、寝方が重要ですね。

○ 最近、自分磨きをしていると思っている方

自分磨きをしていない方は、マイナスの悪循環が始まります。自分磨きをしていると、  
我ながら大したものだという感覚がおきますから、どんどん良い循環が来ます。

では最後に天風先生のクンバハカの練習です。私は毎朝 100 回実行するようにしていま  
す。肛門をキュッと締めると、頭の中もすっきりしますので、お勧めします。

### 論語の視点

では論語の解説を致します。本日は子路篇 28～30 です。

この間、浅草の演芸ホールで「荷風先生、墨東にあそぶ」と題した朗読と新内と帮間芸  
を見て来ました。特に帮間芸が面白かったですね。帮間芸とは、お座敷で持ち芸を披露し  
間を助ける、いわゆる太鼓持ちです。声色を変えて、屏風の向こう側に誰かがいるよう  
に振舞うわけですが、一人で何役も演じていました。その次の日が東京フォーラムで、ち  
ょうどこの講演を教えて下さった会員さんが素読を担当しましたので、論語を帮間芸のよ  
うな語り口で読んでみました。北関東フォーラムでも同じようにやってみましょうか。

【三十】子曰く、<sup>おし</sup>教えざる<sup>たみ</sup>民を以て<sup>もつ</sup>戦<sup>たたか</sup>うは、<sup>こ</sup>是れ<sup>これ</sup>之<sup>す</sup>を棄つと<sup>い</sup>謂う。

「子曰く」は、語り部のところですから、太鼓をトントントントンと小さく叩きながら  
「子曰く～」と言うわけです。続いて孔子の部分は、60 代後半、もう人生の終盤に来た孔  
子が弟子に向かって教を垂れている場面ですから、歳をとった重々しい声色で「教えざ  
る民を以て戦うは～、是れ之を棄つと謂う～」と、そしてまた太鼓がトントン…と入るわ  
けです。

では、解説をします。

戦い方の教育もしないで、国民を戦場に送り出すのは棄民、すなわち国民を見捨てたの  
と同じである。

国家の指導者として、戦争する時には、きちんと国民に戦い方を教えなさいということ  
です。

【二十八】<sup>しろ</sup>子路 問いて曰く、<sup>いわ</sup>如何なるを<sup>いか</sup>か<sup>こ</sup>斯れ<sup>これ</sup>之<sup>し</sup>を<sup>い</sup>士と謂うべきと。子曰く、<sup>しいわ</sup>切切<sup>せつせつ</sup>徳<sup>し</sup>徳、

怡怡如たるを、士と謂うべし。朋友には切切惓惓たり。兄弟には怡怡たりと。

「子路 問いて曰く」の部分は、男性が胸をはってピシッと喋っている感じです。子路は怪力の男で、孔子の所に来た時には、のっしのっしと身体中に色々なものをぶら下げて、「孔子はおるかー」と大声をあげてやって来て、孔子と話をしているうちに恐れ入って、弟子にして下さいと頭を下げたというエピソードがあります。孔子から見ると、子路は可愛くてしょうがない。死ぬ時も孔子の教えを守って死んでいった、という非常に特徴のある人物です。ですから子路の台詞は力強く猪突猛進の感じで読みます。「如何なるをか斯れ之を士と謂うべきと〜。」続いて孔子が子路を諭す台詞は、歳をとって草臥れている感じの声色で読みます。

・・・如何でしょうか？ こんな調子で声色を変えて素読をしても悪くありませんね。後ろで誰か出てきてパフォーマンスをしてくれると、もっと楽しめます。色々な論語の学び方がありますが、耳で聞いて覚えるより、目で見える方がはるかに覚えますから。

では、解説をします。

子路が孔子に「どういう行いをすれば人物といえますか」と質問をしました。

孔子が答えました。「人さまには誠意を尽くして親しく付き合い、和やかな良い表情で悦ばすことが出来れば人物と言える。友人にも兄弟にも、そういう付き合いをすればよからう。」

陽明学の中では誠という字が重要視されます。新撰組の旗印もそうですね。誠意を尽くし、そして芯のある人、自分なりの判断基準をしっかりと持っている人であれば人物であると言ってよい、と捉えるとよろしいでしょう。

【二十九】子曰く、善人 民を教うる事七年ならば、亦 以て戒に即かしむべし。

孔子が言うには、善い人がそれなりのポストに就いて国民を教育する。それが長ければ長いほど、上を敬い、そのために戦争に行くことも厭わない素晴らしい国民になるだろう。

中国の古典で「三」は、一・二・三ではなく、いっぱいという意味です。ですから「七年」とは、かなり長い期間とお考えください。孔子は、自分はずっと短い時間で教えられるが、自分以外の人間、子路がやっても、7年あれば国民を教育し良い国を造ることができると。残念ながら自分はそのポストには就けなかったが…という気持ちが入っています。

## 学問的裏付け

ちょうど1年の半が過ぎましたから、中齋塾フォーラムの目的、何のために我々は学んでいるかということをお話しておきましょう。

以前、岡本代表が中心になって亦楽会という論語の勉強会を続けていました。それから悟道会という勉強会がありました。井澤幹事が今やっておられる前橋木鶏クラブでも修身教授録を勉強させて戴きました。今は、安岡正篤先生の流れを汲む群馬郷学会で安岡教学を学んでいます。これらの勉強会で学んでいるのは皆、人間学です。自分を磨くという部分でまとまっています。

私の中齋塾フォーラムでお話している中心は、「足るを知る」という考え方を自分の身体に沁み込ませるためのお話をしています。「足るを知る」が我々の基本となる考え方です。その考え方が根底になるわけですが、人さまから聞かれた時には、人間学（自分を磨く学問）と答えて結構です。

具体的には、判断基準を身に付ける。会社、或いは家庭の中で問題が起きた時にどう対応するか。個人としての判断基準、国で考えれば国民としての判断基準、森羅万象ありとあらゆるものについて判断基準を身に付けられるようにしたい。人さまに言われて判断するのではなく、自分の心の中で「こうすべきである」と言えるような判断基準を持つこと。更に、知識・見識・胆識を身に付ける。色々な知識を吸収し、判断基準を以て為すべき行動を明確にし（見識）、それを実行する力を持つ（胆識）。

判断基準がきちんと出来て、知識・見識・胆識が身に付く、そうすると後は、行動で人が見てくれる。別に、人が見なくても構いません。ですから我々は、人間学という学問をしているわけです。人間学で通じなければ、哲学でよいと思います。哲学とは、木内信胤先生流に言えば、物事を根本から考えることを意味します。我いかに生くべきか、これが哲学です。我々が今学んでいるのは、学問のジャンルで言えば哲学に属する。私はそう考えてお話をさせて戴いています。

その結果として、日本の行く末はどうなるのか、世界の行く末はどうなるか、1年先。5年先、10年先くらいまでを見通せる力をもてると良いですね。出来れば50年、100年先も見えるとよい。木内信胤先生は共産主義について、「親不孝者が考えた思想だから、まともではない」「一つの国家国民を騙すのも、100年が限度だよ。だから共産主義はつぶれる」と見通しておられます。

## 日本の国を見直す時期

残りの時間で時事評論を致します。

・欧米流監査 200 社に迫る (6/19 日経新聞の夕刊)

今まではどこの会社でも、特に大企業は、取締役会があつて監査役会があつて、社外取締役を数名入れるという流れでした。これではどうも透明性がないということで、監査役が取締役会の内側から経営をチェックする仕組みに移行する企業が増えた。今までの監査役会を監査等委員会として取締役会の中に取り込んでしまう、欧米流の監査を取り入れる企業が 200 社に迫っているという記事です。

この記事を読んで、いい加減、よその国の真似をするのをやめたらよいだろうという気がしています。日本の国は、1000 年以上続いている長寿企業が世界中で圧倒的に多い。素晴らしい企業形態を持っている国が、なぜ他国のものを取り入れなければならないのでしょうか。良いものであれば取り入れるのは結構だと思いますが、日本には昔からもっと良い考え方が沢山あつて、それを外国が後追いして真似しているのではないですか。日本の文化・歴史を見直すと、なぜ日本の国がよその国の後追いをしなければならないのかと、最近特に思います。

日本の国は縄文時代、およそ 13,000 年前~16,000 年前に縄文社会がありました。今、国家という定義がどんどん変革されています。縄文時代の集落(村)が国と定義づけられたなら、日本が最古の文明をもつ国家であったということになります。そうすると、他の国とは段違いのものになります。日本の天皇制の在り方を考えてみて下さい。世界中に 27 の皇室があると云いますが、日本の天皇制と同じような形態、歴史を持つ皇室はありません。何故、日本の皇室だけが長い長い歴史を持っているのかを考えてみるべきでしょう。

日本はこれから経済がどん底に落ちて、そして浮上します。その時にはおそらく、極端な日本文化の礼賛運動が起きるだろうと私は思っています。日本の文化を見直したらこんなに素晴らしいものがあつた、ということになる。我々は今、論語を勉強していますが、論語がなぜ日本の社会に受け入れられたか、考える必要があると思います。なぜ日本の文化の中に論語が受け入れられたか、儒学が入ってきたのか。仏教がなぜ受け入れられたのか。それは神道という存在があるからです。神道によって色々な国の宗教や文化を受容してきたわけです。

今、我々は日本の国を再度見直する良い時期に来ていると思います。フォーラムでも日本の文化・歴史について少しずつお話できればと思っております。